

研究テーマ

研究主題 コミュニケーション能力を養う授業の創造
～主体的な学びをつくる授業づくり～

研究副主題

「自ら考え、伝え合える問いの構成を通して、社会的事象の見方・考え方を育てる」

研究テーマ設定の理由

＜教育の最新の動向・児童の実態・本校の特色・教師の課題意識から＞

前学習指導要領では、公民としての資質を育成するという総括的な目標のもとに、「社会的な見方・考え方を働かせ」「課題を追究したり、解決したり」することを通して「よりよい社会の形成に参画する資質・能力を育てる。」と前学習指導要領の方向を引き継ぎ、方策を明確化・具体化して推進するとされている。本校では、教育活動全体で（表現する）目標をふまえ、社会的事象の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習の充実を図ることを目指し、思考ツールを活用することで、さらなる授業改善を行う。

目指す子ども像

＜主体的に学んでいるという児童の姿＞

- (1) 社会的事象に興味をもち、問い（問題意識）をもっている子
- (2) 自ら考え、友だちと関わり合いながら課題解決に取り組もうとする子

目指す授業像

＜主体的な学びにするための教員の姿＞

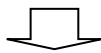
- (1) 社会的事象（具体的な事実）をじっくりと見つめさせ、問い（問題意識）をもたせることができている
- (2) 児童が自ら考え、友だちと関わり合いながら課題を解決する場面を設定することができる

＜研究教科の授業で具体的にできる取り組み＞

児童自ら「社会的な見方・考え方」を働かせることができる問いの構成

1. 児童の問題意識を高める場面

★比較して違いに気づかせたり、逆説的に考えたりさせる問い



- ア. 知識の構造図を使い、教材研究をする。
- イ. 社会的事象と出会わせるとき事実とインパクトのある出会いを具現化する。

2. 児童が学習に取り組んでいく場面

★児童が見通しをもって、追求しなくなるような単元を貫く問い



- ア. 一人ひとりに問いをもたせるために単元の中で、社会的事象をじっくり見つめる時間を確保する。
- イ. 児童にとって、「なぜ」や「どうして」など、切実感のある問いを考える。

3. 児童が学びを深める場面

★児童が、活発な話し合いを行えるような問いや活動・場の設定



- ア. 教師は、児童と児童のつなぎ役に徹し、児童が活発な話し合いのなかで、学びを深めていけるようにファシリテーターとしての役割をする。
- イ. 思考ツールを使って、思考を整理させる。

研究仮設

知識の構造化による教材研究を進め、児童自ら「社会的な見方・考え方」を働かせることができる問いをなげかけ、自ら考え、友だちと関わり合いながら課題を解決する場面を設定すれば、社会的事象の見方・考え方が養われるであろう。

研究のまとめ

研究テーマ

研究主題 コミュニケーション能力を養う授業の創造
 ～主体的な学びをつくる授業づくり～

研究副主題

必然性のある場面設定を通して、コミュニケーション能力の素地を養う

研究テーマ設定の理由

<教育の最新の動向・児童の実態・本校の特色・教師の課題意識から>

本校では、これまで「国際社会に生きるコミュニケーション能力の育成」を主題にして、外国語活動に取り組んできた。コミュニケーション能力を高めるためには、相手の言うことを注意深く聞いて相手の思いを理解しようとする力（受容力）や自分の思いを伝えようとする力（表現力）を養うことが大切である。

目指す子ども像

<主体的に学んでいるという児童の姿>

(1) 積極的に外国語を聞いたり、話したりする子
(2) 友達と関わり合いながら、自分の思いをはっきり相手に伝えようとする子

目指す授業像

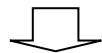
<主体的な学びにするための教員の姿>

(1) 自信をもって発話できるような活動を取り入れることができている
(2) 児童自らが、実際の場面を想定し、場面設定を行うことができている

<研究教科の授業で具体的にできる取り組み>

1. 積極的に発話できるような場面

★児童が、自信をもって、楽しく発話できるような活動や場の設定



【授業時】

- ア. 反復練習のパターンを増やす
- ① スピードの変化
 - ② 順番の変化
 - ③ ジェスチャー
 - ④ 日本語と外国語の混合
 - ⑤ ゲーム

イ. 児童同士のほめ言葉を増やす

【授業外】

- ア. 朝の E タイムを充実させる。(英語検定や授業内容に沿って計画的に確実に行う。)
- イ. 朝の会や他の授業の中で、クラスルームイングリッシュを取り入れる。

2. 発話したくなる場面

★児童が、日常生活でも生かすことができるような活動の設定



【授業時】

- ア. 教師と ALT によるトーキングタイム又は教師によるスモールトークを行い、日常会話の体験をさせる。
- イ. 単元の中で、友達との関わり方を選択できるようにする。

【授業外】

- ア. “Let’s Try!” “Here We Go!”に関する内容や日常会話で使える内容を、明王台小学校英語検定に取り入れる。

研究仮説

聞く・話す・読む・書くなどの体験的な学習活動を中心にして、日常的な取組で言葉や会話を身につけ、積極的に発話したくなる場面を設定し、親しみやすい英語を用いた表現活動に取り組めば、コミュニケーション能力の素地が養われるであろう。

研究のまとめ